

別記様式第8号(別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係)

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告(令和2年度報告)

広島県

1 被害防止計画の作成数、特徴等

本県における被害防止計画の作成は、23市町全てで作成している。計画の作成は、全てが市町単独の計画で、複数市町で共同作成した計画はない。
鳥獣による令和元年度の農作物被害については、被害金額が513百万円で、そのうち約69.8%(358百万円)がイノシシによる被害であることから、計画作成の全市町がイノシシを対象鳥獣に挙げている。
対象鳥獣としては、イノシシ(23市町)、シカ(20市町)、サル(17市町)、カラス(17市町)が上位となっている。
特定外来生物のヌートリアを21市町、アライグマを12市町、水産被害が深刻なカワウを17市町、人身被害が心配されるツキノワグマを5市町が対象鳥獣に挙げている。

2 事業効果の発現状況

県内23市町全てで鳥獣被害対策協議会が組織されている。捕獲体制(駆除班、捕獲班等)は全市町で整備され、そのうち22市町で鳥獣被害対策実施隊が設置されるなど、有害鳥獣捕獲体制の整備が進んでいる。
有害捕獲を進める箱わなの導入や生息状況調査による個体数調整、侵入防止柵の設置や追払い活動等による被害防除、緩衝地帯の設置による生息環境管理が取り組まれるなど、総合的な鳥獣害対策が講じられている。
狩猟免許取得のための講習会、わな架設講習会、鳥獣被害防止研修会の開催など、わなを中心に捕獲の担い手の確保・育成が進んでいる。

3 被害防止計画の目標達成状況

本県の野生鳥獣による農作物被害金額は、令和2年度は513百万円で、前年度に比べて37百万円増加した。要因として暖冬による越冬個体数の増加や被害対策の担い手の高齢化により十分な対策がとれなくなっていることが考えられる。
地域では、鳥獣を寄せ付けにくい環境整備の取組、状況に応じた箱わな等による有害捕獲、侵入防止柵の設置などの対策を講じた結果、被害額等が減少し、被害防止計画の目標が達成できている市町と被害金額及び面積が増加し、目標達成できなかった市町とが出てきている。
被害の減少及び更なる被害の低減を図っていくためには、地域ぐるみで「環境改善」を中心に、「加害個体の捕獲」、「侵入防止」を必要に応じて組み合わせた三対策を実施することが不可欠であり、引き続き被害防止計画の目標達成に取り組む。

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額			被害面積				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
別紙1のとおり																	

注:被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。

5 第三者の意見

コメント

別紙2のとおり

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価		
										被害金額(万円)			被害面積(ha)						
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率				
廿日市市有害鳥獣捕獲対策協議会	市全域	平成30年度	イノシシ サル タヌキ	大型捕獲柵 (サル、シカ、イノシシ)	2基	廿日市市有害鳥獣捕獲対策協議会	R1. 10	100%	イノシシについては、箱わな数を増やしてきていることもあり、捕獲率が向上している。 サルについては、捕獲頭数は増加していないが、毎年捕獲実績があり、引き続き被害防止に向けて捕獲に取り組む。	42	165	-1058%	1.59	1.66	83%	箱わなは効果的に利用されており、今後も捕獲に向けて取り組みを続ける。 捕獲頭数は増えているが、被害面積等は減少していない。行政が実施している被害防除の啓発活動にあわせて、協議会としても防除対策を進め、効果的な捕獲に向けて取り組みを進めたい。	被害金額は増加しているものの、被害面積については減少しており、目標を達成している。 被害金額を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。		
		令和元年度	クマ カラス ヌートリア							箱わな(イノシシ)	13基	6	2	327%	0.06			0.01	516%
		令和2年度	アライグマ カワウ シカ	3	7							400%	0.05	0.02	390%				
		令和2年度	アライグマ カワウ シカ	箱わな(イノシシ)	13基					—	1	—	—	0.01	—				
安芸高田市有害鳥獣捕獲対策協議会	安芸高田市	令和元年度	イノシシ シカ サル カラス	捕獲活動	ドッグナビ(狩猟者用)26台 ドッグナビ(猟犬用)15台 囲いワナ 1基	安芸高田市有害鳥獣実施隊	R1. 9 R1. 11 R1. 11	100%	イノシシ シカ サル カラス ・有害鳥獣捕獲に係る隊員の労務負担軽減を図る。 ・サル捕獲の強化。	878	3,678	-1176	8.80	38.58	-1,254	本市においても、耕作放棄地が多くみられ、イノシシ・シカの潜み地となったり、生息頭数も増加している。今後においても粘り強く対策を講じて行きたい。	被害金額、被害面積とも増加しており、目標を達成していない。また、シカについては近年被害面積が増加している。 被害を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。		
										令和2年度	捕獲活動	箱わな(大型獣用)31基	R3. 3	100%	・大型鳥獣の捕獲強化。			589	623
		令和2年度	捕獲活動	箱わな(大型獣用)31基	R3. 3					100%	・大型鳥獣の捕獲強化。	11	174	-5956	0.05			0.03	104
		令和2年度	捕獲活動	箱わな(大型獣用)31基	R3. 3					100%	・大型鳥獣の捕獲強化。	20	0	502	0.16			0.00	500
呉市 (呉市有害鳥獣被害防止対策協議会)	呉市一円	平成30年度	イノシシ タヌキ サル シカ ヌートリア	個体数の調整	箱わな11基 カワウ捕獲1回	呉市	平成30年度 令和元年度 令和2年度	100%	イノシシの捕獲数はR2年度末で3,869頭、シカ96頭であり、R元年度より669頭も増加した。侵入防止・捕獲によって一定程度の個体数の調整は図られていると考えられる。 防護柵の整備については、設置箇所はイノシシの侵入を防止できているが、防護柵がない箇所に被害が起きているので、今後さらに防護柵の整備を促進することが望まれる。	4,290	6,496	4.5	16.41	24.38	9.8	概ね防護、捕獲等の推進は図られているものと考えられる。しかし、特にイノシシ及びシカの個体数が予想以上に増加しており、被害金額・被害面積ともに目標達成には至っていない。 また、タヌキ・サル・ヒヨドリによる被害も年々顕著になりつつある。 今後は、引き続き被害の多いイノシシ・シカを中心に捕獲圧を高めるとともに、防護柵設置などにより鳥獣を寄せつけない環境づくりをより一層推進していく必要がある。	基準年と比較すると、被害面積、被害金額は減少しているものの、目標達成には至っていない。 引き続き、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲を一体となって取組んでいく必要がある。		
		令和元年度	イノシシ タヌキ サル シカ ヌートリア イタチ・テン・アナグマ ハクビシン アライグマ カラス ヒヨドリ カワウ	ICT等新技術の実証	遠隔操作・監視システム					114	256	-131.3	0.44	0.57	45.8				
		令和元年度	イノシシ タヌキ サル シカ ヌートリア イタチ・テン・アナグマ ハクビシン アライグマ カラス ヒヨドリ カワウ	侵入防止柵の設置	ワイヤーメッシュ柵 3ヶ所 延長734.1m					17	47	-228.3	0.10	0.18	-33.3				
		令和2年度	イノシシ タヌキ サル シカ ヌートリア イタチ・テン・アナグマ ハクビシン アライグマ カラス ヒヨドリ カワウ	個体数の調整	箱わな17基 くくりわな20基 看板20枚 カワウ捕獲1回					20	117	-790.8	0.12	0.51	-457.1				
東広島市有害鳥獣捕獲対策協議会	東広島市	平成30年度	イノシシ	箱わな購入	35基	協議会	H31.1.31	100%	箱わなの設置後に捕獲数が増加しており、わなの設置による効果が認められる。	114	256	-131.3	0.44	0.57	45.8	被害面積では目標を達成したが、被害金額では、目標を達成しておらず、侵入防止、捕獲、環境改善の総合的な取組による一定の成果が得られているものの、被害の減少にはつながっていない。 特に農作物被害の約8割を占めるイノシシについては、捕獲頭数は増加しているが、被害は前回より増加している。加えてシカの被害も増加している。 また、侵入防止柵を設置していない集落では、これまで被害がなかった地域で被害相談が寄せられており、有害獣の生息区域・活動範囲の拡大が懸念されるため、今後も継続した総合的な取り組みが必要と考えている。	被害金額は増加しているものの、被害面積については減少しており、目標を達成している。 被害金額を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。		
		令和元年度	イノシシ	箱わな購入	28基					R2.2.14	100%	1,946	3,370	-193	37.00			31.60	160
		令和2年度	イノシシ	箱わな購入	18基					R2.10.30	100%	1,725	2,780	-145	31.00			30.00	113
		令和2年度	イノシシ	箱わな購入	18基					R2.10.30	100%	1,725	2,780	-145	31.00			30.00	113
東広島市	東広島市	平成30年度	イノシシ、シカ	ワイヤーメッシュ柵の整備	地区数6 H=1m、2m L=10,653m	設置集落、農業法人	H31.3.17	100%	柵を設置した集落等では、柵の設置後は有害鳥獣による被害が減少していると報告を受けており、侵入防止柵の設置による効果が認められる。	143	501	-894	3.00	0.70	300	被害金額は増加しているものの、被害面積については減少しており、目標を達成している。 被害金額を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。	被害金額は増加しているものの、被害面積については減少しており、目標を達成している。 被害金額を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。		
		令和元年度	イノシシ、シカ	ワイヤーメッシュ柵の整備 (災害復旧分も含む)	地区数20 H=1m、2m L=7,592m					R2.3.30	100%	6	0	700	0.20			0.00	300
		令和2年度	イノシシ、シカ	ワイヤーメッシュ柵の整備	地区数1 H=1m L=1,189m					R3.2.8	100%	72	89	6	2.00			0.90	350
		令和2年度	イノシシ、シカ	ワイヤーメッシュ柵の整備	地区数1 H=1m L=1,189m					R3.2.8	100%	72	89	6	2.00			0.90	350

4 各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	都道府県の評価
										被害金額(万円)			被害面積(ha)				
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率		
世羅町鳥獣被害対策協議会	世羅町	平成30年度	イノシシ	狩猟免許取得助成	15名	取組組織 世羅町鳥獣対策実施隊及び個人捕獲者	H30.11	100%	狩猟免許保有者を増やせた。	1,893	1,921	94.1%	19.00	19.12	97.6%	世羅町では、狩猟免許登録を高年齢などを理由に更新をしない傾向にあるが、交付金活用による新規狩猟者免許の取得助成により全体的には横ばいを維持している。 また、平成29年度の捕獲頭数はイノシシが543頭、シカが261頭の計804頭が、令和2年度はイノシシ649頭、シカが626頭の計1,275頭と増加した。 世羅町全体の農作物被害は、平成30年度が約26百万円、令和元年度が約27百万円と減少傾向であったが、令和2年度に約32百万円と増加に転じた。しかし、令和元年度から大型有害鳥獣の捕獲頭数が1,200頭を超えており、一定の効果はあった。	被害面積は増加しており、被害金額は基準年と比較すると減少しているものの、目標達成には至っていない。被害を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。
			シカ	捕獲技術向上研修会	1回		H30.6	100%	農家の捕獲意欲向上に繋がった。	527	955	-224.2%	7.00	14.39	-308.3%		
			カラス	侵入防止柵 4地区	4,065m		H30.11~H31.3	100%	野生動物による農作物被害が低減した。	186	74	343.5%	0.40	0.15	256.3%		
			ヌートリア	イノシシ及びシカの緊急捕獲	205頭		H30.10~11	100%	野生動物の捕獲により農作物への被害低減に寄与した。	13	26	-333.3%	0.07	0.06	150.0%		
		令和元年度	カワウ	狩猟免許取得助成	7名	-	R1.11	100%	狩猟免許保有者を増やせた。	0	0	-	0.00	0.00	-		
			アナグマ	研修会用教材(DVD)購入	2枚	-	R2.1	100%	被害対策の知識向上に繋がった。	0	0	-	0.00	0.00	-		
			アライグマ	自動カメラの購入	7基	世羅町鳥獣被害対策実施隊	R2.1	100%	野生動物の動向確認や捕獲向上に繋がった。	0	148	-	0.00	0.12	-		
				大型箱わなの購入	10基	世羅町鳥獣対策実施隊及び個人捕獲者	R1.8	100%	足りないわなを増やし、被害報告に基づき実施隊で運用することで捕獲数を増加させた。								
		令和2年度		イノシシ及びシカの緊急捕獲	722頭	世羅町鳥獣対策実施隊及び個人捕獲者	H30.4~R1.10	100%	野生動物の捕獲により農作物への被害低減に寄与した。								
				狩猟免許取得助成	5名	-	R2.11	100%	狩猟免許保有者を増やせた。								
				研修会用教材(DVD)購入	2枚	世羅町鳥獣被害対策実施隊	R2.11	100%	被害対策の知識向上に繋がった。								
				小型箱わなの購入	20基	世羅町鳥獣被害対策実施隊	R2.8	100%	足りないわなを増やし、被害報告に基づき実施隊で運用することで捕獲数を増加させた。								
庄原市有害鳥獣対策協議会	庄原市	平成30年度	イノシシ	箱わな導入	10基	協議会 地元集落	H31.2	100%	侵入防止柵・箱わなの設置による一定の効果は出てきているが、イノシシの個体数が増加傾向にあるため、農作物被害、捕獲数は増加している。	1,170	2,836	-1,183	47.77	29.72	440	本市において鳥獣被害は、平成22年度のイノシシ大量出没に伴う農作物被害の急増に伴い、本事業に取り組んできた。その結果、本事業の効果もあり、鳥獣被害は26年度には急激に減少し、以降は横ばい傾向にあった。侵入防止柵・箱わなの設置による一定の効果は出てきているが、平成30年から令和2年はイノシシによる農作物被害が増加し、令和2年からはシカによる農作物被害も散見され始めた。今後も、個体数の管理、環境整備及び学習会の開催などソフト面の充実を図る。	被害金額は増加しているものの、被害面積については減少しており、目標を達成している。被害金額を減少させるため、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、捕獲の総合的な取組をさらに強化して取組んでいく必要がある。
			カラス	侵入防止柵設置	2,000m		H31.1	100%		999	0.96	0.00	973				
		令和元年度	サル	箱わな導入	8基		R2.2	100%		4	0	1,075	0.03	0.00	-		
		サギ類・カワウ	侵入防止柵設置	14,673m	R2.1		100%	3		0	1,100	0.01	0.00	-			
		令和2年度	シカ	箱わな導入	8基		R3.2	100%		1	212	-210,900	0.02	1.28	-		
			ツキノワグマ アライグマ ヌートリア	侵入防止柵設置	14,176m		R3.3	100%		77	164	-905	0.77	0.68	213		
広島県	広島県全域	令和2年度	イノシシ シカ カワウ等	広域捕獲活動 人材育成活動	カワウ一斉対策・被害状況調査・連携強化、集落実態調査、人材育成研修、実施隊員等育成	広島県	-	100%	カワウについては総合的な対策に向けて被害状況の把握と関係機関の連携強化が進んだ。県内19市町が参加した集落実態調査により、集落等の被害状況の把握を行い、被害対策の成功事例や課題のある集落の抽出ができた。被害防除、捕獲等の対策を指導する新たな人材の育成が進んだ。	-	-	-	-	-	-	カワウについての被害状況の把握や一斉対策の取組連携など、カワウ被害防除のための総合的な対策の継続的な取組が期待される。 また集落実態調査の結果を活用し、成功事例の波及につなげるなど育成された人材により、効率的かつ効果的な被害対策の推進に資するものと考えられる。	-

5 第三者の意見

事業実施主体名 (協議会名)	コメント
廿日市市有害鳥獣捕獲対策協議会	【おおの自然観察の森(おおの自然観察センター) 園長 齋藤勝績】 イノシシについては、捕獲頭数が上がっているものの、被害面積、被害額の減少は見られない。有効な手段である捕獲については、引き続き実施し、併せて防除対策についても取り組む必要がある。
安芸高田市有害鳥獣捕獲対策協議会	【広島県西部農林水産事務所 林務第一課 課長 白石勝也】 イノシシによる農作物被害面積の目標値はおおむね達成したものの、被害金額は目標値を大きく上回っている。また、シカによる農作物被害は面積・金額とも目標値のおおむね2倍となっている。 安芸高田市鳥獣被害防止計画(R3年度)によると、被害を抑えられない理由の一つとして、イノシシ、シカの個体数が増加する一方、防護柵の管理や捕獲を行う者が十分でないことが挙げられている。このため、引き続き、放任果樹の撤去や追い払いなどに取り組むとともに、研修会の開催等により防護柵の管理や捕獲を行う次世代の人材の育成・確保を強化されたい。
呉市有害鳥獣被害防止対策協議会	【広島大学大学院統合生命科学研究科教授 谷田 創】 呉市の防護、捕獲等の推進は堅実に図られていると考える。しかし一方で、イノシシとシカの捕獲数の増加がまだまだ顕著である。これは、捕獲事業の促進(箱罟の増設を含む)による成果が出たものと考えられるが、それと同時にこれらの野生動物の個体数が増加している可能性も示唆するものである。特にイノシシの個体数の増加については、1)イノシシが若齢で性成熟に達すること、2)一腹の産子数が多いことから、一定程度捕獲しても短期間に個体数が回復してしまうという脅威がある。また、近年はイノシシとシカの生息域が拡大する傾向にある。谷田研究室の調査によると、本州側で捕獲を逃れた個体が無人島に渡り、そこで繁殖活動をし、新規に誕生した個体が本州側や有人島へUターンしている可能性も示唆されているので、今後は呉市全域で計画的な捕獲対策を立案し、各地域や集落に生息するイノシシとシカの個体群を、その地域内で捕獲し、他地域への流入を最小限に抑制することが必要である。また近年は、カワウ、ヌートリア、ヒヨドリ、サルなどその他の野生動物による被害も増えつつある。多くの野生動物は繁殖効率が高いため、初動対策を怠ると手がつけられなくなるので、被害が軽微な段階での対策実施が効果的であると考えられる。
東広島市有害鳥獣捕獲対策協議会	【広島県西部農業技術指導所 参事 宮脇尚久】 東広島市の鳥獣による農作物被害金額は、平成25年度の3,897万円をピークに平成30年度には1,428万円まで減少したが、令和2年度は3,370万円と再び増加している。被害の大部分を占めるイノシシについては、捕獲頭数は平成30年度の2,181頭から令和2年度には2,349頭と増加しており、箱わなの導入効果が認められる。今後は、箱わなの購入とともに、効果的な箱わなの設置方法について勉強会を行うなどソフト面の充実により、更なる捕獲技術の向上にも取り組んでいただきたい。また、被害金額は平成30年度の1,319万円から令和2年度は2,780万円と倍増しており、潜み場となる茂みをなくすなどの「環境改善」、「侵入防止」、「加害個体の捕獲」をバランスよく実施する必要がある。特に環境改善については、農業者自らが主体的に取り組む必要があり、学びの場を設けて、農業者の意識改革を促すことが重要である。また、ワイヤーメッシュ柵については、より効果を高めるため、集落単位等で取り組むよう、より一層の働きかけをお願いする。イノシシ以外の鳥獣についても勉強会を行い、エサとなる放任果樹や潜み場をなくすなど、住民自らが、できることから取り組む鳥獣被害対策を進めていただきたい。
世羅町鳥獣被害対策協議会	【広島県東部農業技術指導所 参事 佐々木弘信】 ・狩猟免許取得助成による狩猟免許保有者の確保や、箱わなの増設により、イノシシやシカの捕獲頭数が着実に増加しており、事業実施の効果は確実に認められる。また、研修による知識の習得や意識向上、侵入防止柵の設置により、被害を抑えて被害金額の目標値に近づいている。しかし、被害面積、被害額も高い水準のままであり、被害状況は深刻なものとなっている。 ・今後もこれらの事業を継続実施し、捕獲対策と地域での侵入防止に取組まなければ、鳥獣被害を抑えることは出来ないと考えられる。地域ぐるみでの侵入防止柵の点検・管理、潜み場の除去、放任果樹や野菜残渣の除去等に取組むことが必要であり、鳥獣被害対策のための研修会等により意識啓発と技術情報の伝達が重要である。 ・地域ぐるみでの「環境改善」、「侵入防止」、「加害個体の捕獲」の総合的な鳥獣被害防止対策を継続して実施することが必要である。
庄原市有害鳥獣対策協議会	【北部農林水産事務所 林務第一課長 櫻井潤一】 平成26年度からの減少・被害の低減は事業の取り組みにより一定の効果があったものと考えます。しかし令和2年から被害が増加またシカの被害も出てきたことから、引き続き被害防止対策を行うとともに新たな取り組みの必要があると考えます。 イノシシ・シカについては生息区域が拡大しており、またヌートリア・アライグマ等外来生物は繁殖力も強く生息数・生息域の拡大の懸念があります。これらの生息・被害の実態把握を行い、より効率的な有害鳥獣対策を継続していくことが重要と考えます。
広島県	【農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門動物行動管理研究領域 上級研究員 上田弘則】 市町等が行う、集落ぐるみでの環境改善、侵入防止、加害個体の捕獲の一体的な取組を支援するため、必要な各種対策や人材育成、育成した人材のスキルアップが行われている。 また、集落実態調査により被害状況の把握も行っており、効率的かつ効果的な被害対策の推進に資するものと考えられる。今後も継続した取組を推進して、市町の支援を行っていくことが必要ではないかと考えられる。

